

おおとり会だより

『おおとり会』への伝言

—モニュメント彫刻の完成に寄せて—

静岡県立大学国際関係学部 立田 洋司

世の中が忙しくなり、私たちの心も忙しくなつて、優雅なもの、ゆったりとしたもの、すがすがしいものがめっきり減つてしまった。盤石のようにどっしりとしたものも、本来の富士山のように簡潔な中にも豊饒を秘めたものも、野葡萄のように逞しくも可憐なものも…。空気が汚れてきて、雨は酸性雨と化し、透明な電波の嵐も生活や健康面で深刻な害を及ぼし、おまけに溢れかえる情報が人を落ち着かなくさせる…。技術の発展はあつても、そこでは同じものが大量に作られたりするから、「モノ」の間で人間性が埋没し、モノを使う人までが安物っぽくなつてしまいがち…。

けれども、あなたがたの時代では、すべてが随分違つていた—

そう、今も網膜に浮かぶ『静女生』は、堅実ながらもつと優雅・温和で、虚実や美醜をかなり見分け、我慢の意味も少なからず悟り、そのうえ楚々たる趣も備わつていて…。

また毎日坂道を登るあなたがたは、その健脚もたくましく、乙女の香ぐわしさはあつても、

香水やたばこの匂いなどはほとんど無縁だつた。まして、携帯電話の喧噪なぞ…。

だから、あなたがたとその周りには、汚染には無関係の清々しい情景が満ちていた。

今、時間はだいたい過ぎ去つてしまつたようだが、ここにかつてのそうした記憶をつなぎとめてくれる一つの作品が私たちの手で生まれたことを素直に喜ぶたい。

—幾つかの困難には出会つたものの、結果的には赤地経夫先生を中心として、筆者など教官を含む同窓会がその制作に真剣に取り組んだモノユメント彫刻。— 私たちがかつて感じていたはずの「生命と自然との原理的対話」を礎にした、この極めてオリジナルな作品が、『おおとり(鵬)』と『ふじ(富士・不二)』の両象形を内包させつつ、静岡県立大学の一角で、今後遙かな時空を呼吸していく。— 不動の部分(黒石や陶器)は、酸性雨にも溶かされず、汚染空気にも侵されず…。動の部分(野葡萄)は、根源的な生命の営みと、その楚々たる実りを見据えながら…。



完成したモニュメント

思うに、このことは、「同窓会の意志と心根を後輩や友人に伝えようとする表現」でもあり得るだろう。その意味を汲み、好意を越えた努力で石を刻まれた赤地先生には全く頭が下がる思いだが、在野の方々、とくにイナツクスノ平野篤夫氏の御協力にも感激させられた。こうした無私の好意が宿る作品は、いわゆる第三者への全依存からは決して生まれ得なかつたらうと、本当に嬉しく、また誇りにも思っているのである。

一期一会

前静岡県立大学国際関係学部

沼田俊昭

静岡の地に始めて足を踏み入れたのは、昭和四七年二月のことです。

十二年間住んだ仙台は、当時まだ雪深く、静岡の道端に青い草を見た時は、びっくりしたものでした。

知人は誰一人なく、独身、とても颯爽とは言えない心情でした。

東海大学短期大学部に公募で赴任して二年目、市教委の課長さんから、「優秀な若手の教員を集めますから講師として、一緒に勉強を始めませんか」と誘われました。教員は三、五年も勤務すると、教える内容を熟知するものの、そこからマンネリが始まる。そこで原点に帰って、教育哲学を学ぼうと言うのです。

講師料なしで、二年間続きました。実際に楽しい勉強会でした。このグループから、静岡県の教育を支える実によくの方々が出て来られることになりました。一期一会といいますが、人生における出会いの大切を津津と感じる由縁です。

昭和五〇年には、静岡女子大の加藤先生の後任として赴任することになりました。公募で面接もありましたが、面接官は、高嶋先生、河村先生、そしてお亡くなりになった美尾先生でした。当時結婚して東京におりましたが、美尾先生から何度も、決定したら静岡に住むようにと言われたことを思い出します。五四年、三六才の時、高嶋先生の後任

の学生部長に選出されました。これは半ば革命みたいな選挙でしたが、学長の森先生、大御所秦先生初め多くの方々のご支援をいただき、四年間波瀾の中にもなんとか勤めを終えることが出来ました。この時から、これまた、おおとり会の大御所、牛木会長との出会いも始まりました。五四年は、共通一次元年でしたし、森学長を中心に行われた婦人問題研究は今みてもキラリと光る研究内容です。

昭和六一年、再度、学生部長に選出されましたが、その時は、女子大の発展的解消が決定され、内籩学長を中心に、最善なる統合発展をめざし日々健闘されているところでした。

六二年には、静岡県立大が発足し、学長は内籩先生、私は、その後六年間学生部長としておつかえすることになります。内籩先生は、よく「世界に誇れる大学」と言われて我々を叱咤激励されておりましたが、今日皆さんご存知のように、日本でも注目される大学に発展してきたと考えています。

内籩先生との七年間は、私の人生にとって、実に感慨深い年月となりました。内籩先生が、任期満了され御退官になる時、私達に残して下さった色紙のお言葉は、「二期一会」でした。

二十七年間静岡に住んだことになりましたが、気候と同じように暖かく迎え入

れてもらい、実に多くの良き出会いがあり、育てていただいたと思っております。昨年十一月、県教育委員会の推薦により文部大臣賞をいただきましたが、静岡で出会えた多くの方々の贈り物と考え、また、静岡で二十七年間微力ながら仕事した証として拝受しました。

学長は、半導体の研究で世界的に有名な西澤潤一先生です。西澤先生の「教育は手作り」「学生の心に火を燈す教育」という言葉に感銘を受けて、また、静岡が私の心に蒔いてくれた種を、岩手の地で開花させようと帰る決心をしました。このことが育ててくれた静岡への恩返しであると考えています。

雑感

静岡県立大学国際関係学部

鷲山茂雄



幸福な家庭はどれもみな似たりよつたりだが、不幸な家庭は不幸のさまがひとつひとつ違っている

我ら青春の書『アンナ・カレーニナ』（学生時代気になる女の子に「面白いわよ」と言われ急いで本屋に走り、夜昼メシもよそに、授業もサボりむさぼり読んだものだが……）のあまりにも有名な冒頭の一節であるが、若き日にはそれほど気にもとめなかったこの文句がこのごろいやに気にかかる。

たとえば、「不幸な家庭」を「教育問題」と置き換えてみると「問題のさま」がじつに「ひとつひとつ」違うことはたれしも実感できることであろう。「教育問題」「恋愛問題」「家庭問題」などそのさまが「ひとつひとつ」違うところから

シナリオライターがその創造力に枯渇した時ここに逃げ込むのも無理無いか。かくてテレビむきマンガむきの安易なホームドラマ・学園もの・ガキのラブストーリーが量産される。

当事者にとって主観的に一大問題であつても他人には案外退屈極まることという場合もよくあることだ。ことに教育にまつわる問題は主観的には大問題であつても他者にとっては何ほどの意義も見出せないことも多いようである。

昨今の年少者の凶悪犯罪は爛熟社会における一現象なのであるが、この未知なる爛熟社会に根ざす大問題を我々は矮小化し、主観的大問題とおなじレベルで見えてしまつてゐる。問題の大きさに思いが及ばないのだ。

静岡女子大学の思い出

静岡県立大学経営情報学部 勝矢光昭

私が一般教養科の物理学助手として静岡女子大学に赴任したのは昭和五〇年七月でした。その年の四月、小出先生が物理の助手から講師に昇格され、私はその後釜として採用された訳です。以来私は昭和六二年四月、静岡県立大学発足までその職にとどまり、主に素粒子物理学の研究と一般教養科の物理学実験に携わって参りました。

助手の立場から十二年間余り、静岡女子大学を見続けてきた訳ですが、本来の助手の職務である物理学実験は受講者も少なく、受講する学生も例えば、電圧・電流・電力等の定義を明確に理解する学生がいない現状でした。従って、本来の職務については何も書くことはありませんので、印象に残った思い出だけをこの場を借りて紹介しましょう。一般教養科は人文・社会・自然・教職・体育から構成されており、私の赴任当時の一般教養科の助手は、小林さん、高柳さん、西谷さん、板井さん、芹沢さん、遠山さん等でした。私の場合は、担当授業時間は非常に少なく、私は他の助手の方々と奇妙な連帯感を感じていました。四月には大学の竹藪で竹の子が頭をのぞかせ、それを見つけて掘るのが楽しみでした。特に板井さんは生物学的に、竹の子が出る所を予言され、彼の洞察力を私は非常に羨ましく思っても

でした。

読者の皆様は大学の助手という職種についてあまりご存知ないかも知れませんが、大学では助手と講師・助教授・教授の間には非常に高い壁があります。この高い壁があるにもかかわらず、学長選挙の際には助手にも選挙権があり

女子大と私のかかわり

元静岡女子短期大学 講師 清川安彦

それは昭和二十七年の事である。私は命をうけて二一年に創立した追手町の木造病院を二五年に鷹匠町に鉄筋コンクリートの近代的病院に仕上げる仕事に全精力を傾けている最中であつた。そこへ二六年に開校された女子短期大学の鈴木弘学長と高原先生が来訪され、短大で講座を持ってくれとの御申出、私は病院の事で精一杯で、休暇など任りませぬ故とお断りした。が二度来られたので私は知事の部下であるから知事の許可でも無ければと逃げた。すると三度目に来られた時知事の許可も得たとの事だったのでお受けした。「何を講義するのですか」と尋ねたら学長は「教育講座」として何でもよろしい、

人生物語でも御随意にとの事で、開講二、三回は世相批判など評論めいた事で時間を費したが矢張り私は医者なの

ます。「大学内で助手層が冷遇されている」という意識から助手の権利を守ろうと助手会が組織され、選挙権を有効に行使しようとする議論がなされました。ある学長選挙の際、候補者全員に助手会としてアンケートを送付し返送された回答書を議論したことが印象に残っています。現在の県立大学でも似たような問題意識が助手層にはあると推測します。すべての大学の助手の皆さんのご検討をお祈りします。

のかかわり

清川安彦

で医学の話にし様と考え従来診療室で母親達と話し合う問答の間に女性の教養を高めなければ社会文化は向上しない等思いが湧き、その様な事を口に出して居たのを高原先生が聞き伝えられて私にお呼び出しがあつたのではなからうか等考えて「育児学」を講じる事にした。まだ結婚もせず子供も持たぬ若い女性に「育児学」では絵空事の様に取りられないかとも思ったが、頭の何処かに少しでも留る事があつたら嬉しいと教壇に立つた。

それよりも私の個人的事として、講義前の時間に家政科の染色教室に入り、後に人間国宝になられる偉い先生とも知らず気楽に芹沢先生のお傍近くに腰かけて、先生が学生の作品を採点中に「この作品どう悪いのですか？」など野暮な質問を放ち先生を苦笑させ、

傍に大橋先生と臼井節子さんが立って笑って居たあの部屋の印象は未だに私に残っている。

何年か後、学内で大学昇格の事が論議され、松浦三代目学長が知事の所へ陳状に行くと言ふ事になって「自分は知事とは懇意ではない、聞けば君は親しいそうだし清川は予算取るのが上手だと皆が云うから知事室へついて来てくれないか」と云われ、県庁へ行き種々接衝の結果谷田へ女子大として移る事に決定した。私は女子大という名が無くなる迄講座を持たせて頂き、最後の数年間の講義は私の最も学の進んだ時期だったので恥かしくないものになつて居たと自負している。

そして女子大の名の消える最後の卒業式とからんだ閉学式に際して、内園先生から感謝状を頂いたが、その際の答辞に「講義をするという事は講師自身がたゆまぬ勉強をする事で、自分は女子大で得難い勉学の間を与えて頂いた事感謝している」と申し述べたら、壇上の席で知事と秦鴻四先生がうなづいて居られたあの時の光景は今も尚胸に浮ぶ。

「命長ければ恥多し」と古人は云つた。しかし命長くして得をする場合もある筈。私はその後者に属する様である。長生きして長年月勉学の時を持つ事が出来たお陰で漸く「育児学」の真髄を掴む喜びを持つ事が出来て何となく楽しい。それにしても、もう十年早く此処へ行きつきたかつたと悔まれてならぬ。

平成十年二月 九十六才老

総会顛末記

平成九年度の総会は始めから、いつもとはちがったスタートが切られました。日程からして、県立大学開学十周年の行事と重ならないようにとの配慮から、ギリギリまで決まりませんでした。念願のモニュメントの完成に合わせ、総会の当日除幕式も行うことが出来ました。そのため例年になく恩師のご出席が増え、なんと歴代三名の学長先生をお迎えすることができ、当番幹事としては、うれしい悲鳴というのが本音でした。

アトラクションは、食物二回卒の武山さん率いる静岡邦友会による箏と尺八のアンサンブルでした。素人芸とは思えぬ素晴らしい演奏を堪能しました。除幕式の後の懇親会では女子大閉学を惜しむ歌の披露あり、モニュメント完成までのエピソードありと盛り沢山の内容でした。おひらきになつてから県大の眺めのよい部屋を開設していただき、いくつかの二次会も開かれました。

最後に肝心の総会議事ですが、滞りなくとは申しませんが、活発な意見交換が行われたことを報告して、次の会にバトンタッチ致します。

次回の総会にも、是非多くの卒業生の皆様の参加をお願い致します。

当番幹事

大二鈴木真理子

国文科

第五回総会に出席して

国文科では、昭和六三年の同窓会発足以来、第四回までは二年毎の開催として居りましたが、今回三年の間を置いての開催となりました。

送料節約の為、会報二号を当日お分けできるように発行致しました。

学会の日程とうまく続いたということで、矢野準先生がはるばる九州からお出かけ下さいました。

当日ご講演下さいました三木紀人先生と、大津山国夫先生、太田京子先生とは約三十年ぶりのご再会でした。

一部は事務的な総会、二部がご講演、三部を会食という構成で、三木先生には「中世文学の私と私」という題でご講演いただきました。

先生は、当時神奈川からお通いで、東海道線の通勤途上での空への想い、空への視線、空への心の寄せ方は徒然草の本質と似ているのではないかとということ、高校生の頃きらいだった、ひとひねりのあるいやなじいという兼好への思いが、実は啄木・波郷・谷川俊太郎というロマン

告知板

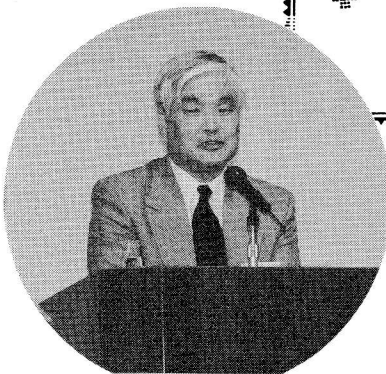
ティツクな詩人と通じているのではないかと感じるようになった。というお話から徒然草を中心に、とてもソフトな語り口でお話いただきました。三十年前の若い憧れの的であった先生のお話に久しぶりにうっとりさせさせていただきました。

総会にご出席下されば、懐かしいお友達にも会えますし、在学中には、いらつしやらなかつた先生方にも、お会いすることもできて、たくさんのお逢いがあります。

いくつかの回では、総会の後、クラス会や、一泊旅行を計画されたり、総会を機会に、それぞれの楽しみ方をなさつたようです。

ぜひみなさま次回の総会にお出かけになり、ご自分の楽しみ方をなさつて下さいませ。ぜひお逢い致しますよう。

短大一六 山下和子



講演中の三木先生

英文科

第8回「草薙の丘」の集い(静岡女子大同窓会)を下記のように開催いたします。

日時 平成10年5月24日(日)

場所 からすま京都ホテル

お話し 小泉保先生

「ジョークの落ちについて」

会費 7,000円

幹事 佐々木規子

電話 075-957-4330

その他詳しいお問い合わせは幹事様迄お願いします

食物科

なごやかに二十周年を祝う

昨年、秋晴れの十一月九日、駅前ホテル、アソシア静岡ターミナルに於いて、第九回食物科同窓会が盛大に開催されました。今年が発足二十周年にあたり、恩師の先生、来賓の皆様(十一名)をお迎えし、同窓生百五十六名(短大一〇六名、大学五十七名)が遠くは岩手、福岡からも出席して賑やかに行われました。総会の後の会場を移しての立食パーティーでは、久しぶりに再会する先生、友人、和光寮での先輩、後輩、会場は熱気が包み、懇談の輪が広がり、楽しい盛り上りの中、幕を閉じました。又、会の成りたち、会員の現状等がもりこまれた「二十周年記念誌」と郵便番号七桁化に合せ「会員名簿」を発行し、配られました。

剣 祭

当番幹事として剣祭に参加しました。県立大へは食物科の幹事会等で行く機会が多いのですが、剣祭は初めて。大体学園祭等というものには、娘達が卒業して以来、縁がなかったのですが学生時代と違はいかなくても大学生の母親位には若返った気分が出掛けました。私も何か出品しなくてはと思い、二、三日前から家でクッキーを焼き二百枚程持参することにしました。

当日は、ちよつと空模様が心配なお天気でしたが、正面の階段を上つていくと右側におおとり会のテントがあり、会員の皆様の心のこもった手づくりの品々が並びました。囲りには学生さん達が出している店が沢山あり、派手な呼び込みをしているお店もあって、その中でおおとり会の店は地味ですが、準備の出来た十一時頃には人も集まり始め、お昼頃にはすっかり売り切れてしまいました。今の時代、手づくりの四文字には、暖かて何となくほっとするひびきがあつて人気があつたのではないのでしょうか。

お昼も過ぎ片付けを始めていると講堂で、清水ミチコのライブとトークショーがあり、空席があるとお誘い、では行ってみましょうということになり皆で出掛けました。一時半程ユニークなピアノの弾き語りで笑わせるショーを楽しみました。

平成8年度 決算報告書

自平成8年4月1日
至平成9年3月31日

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|---------|-----------|-------------|------------|
| 通信費振込 | 997,500円 | 総会開催費 | 78,495円 |
| 総会開催余剰金 | 58,633 | 会報発行費 | 538,245 |
| 受取利息 | 262,743 | 会議費 | 41,311 |
| 雑収入 | 43,930 | モニュメント建設準備費 | 158,055 |
| | | 事務費 | 18,837 |
| | | 雑費 | 8,500 |
| 本年度収益金 | 1,362,806 | 本年度支出金 | 843,443 |
| 差引利益 | | | 519,363 |
| 前年度繰越金 | 9,663,054 | | |
| " (基金) | 6,802,877 | | 16,465,931 |
| | | 次期繰越金 | 16,985,294 |

繰越し金内訳

| | | | |
|------|-------------|------------|------------|
| 定額預金 | 11,899,623円 | 仮払金 (赤地先生) | 1,000,000円 |
| 債券投信 | 3,376,422 | 書籍 | 171,600 |
| 通常預金 | 317,222 | テレホンカード | 5,390 |
| 普通預金 | 80,149 | 現金 | 126,888 |
| 振込残 | 8,000 | | |

合計 16,985,294

平成9年度 収支予算案

自平成9年4月1日
至平成10年3月31日

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|--------|------------|-------|-----------|
| 本部会計より | 1,000,000円 | 総会開催費 | 150,000円 |
| | | 会報発行費 | 500,000 |
| | | 会議費 | 40,000 |
| | | 事務費 | 10,000 |
| | | 事予備費 | 300,000 |
| 合計 | 1,000,000 | 合計 | 1,000,000 |

特別会計

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|--------|------------|-----------|------------|
| 本部会計より | 5,000,000円 | モニュメント建設費 | 5,000,000円 |



おおとり会模擬店風景

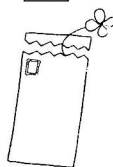
活気ある大学の様子に触れることができ、又機会があれば参加したいと思いま

剣祭 バザー出品者

短大 1回 牛木 琴
短大 8回 望月 紀子
短大 13回 三上 博子
短大 15回 八木 文子
大学 2回 鈴木 真理子
おでんの大鍋、リンゴジャム、
揚げたてコロッケ、パン、
マドレーヌ、クッキー等
純益30,360円はおおとり会
本会計に。
ご協力ありがとうございました。

した。皆様も是非一度剣祭に行ってみて下さい。
短大食物八回 望月 紀子

編集後記



○岩手県立大学新設準備のお忙しい中、寄稿をいただいた沼田先生、古里での御活躍をお祈りいたします。
○新聞や、小中学校の広報誌などに書いてある記事より、構成方法や、写真の位置に注意して読む毎日でした。色々経験できた事に感謝しています。
○今回は主として、女子大学、緑りの先生方に原稿をお願い致しました。
○短大・女子大学、双方で御指導頂いた清川先生は九十六才で益々御壮健でおられます。何時までもお元気での御活躍を念じています。
○ご意見、ご要望をお待ちして居ります。

ご冥福を心からお祈り申し上げます。
■昭和四五年からご指導いただいた心理学の中森正純先生が、平成九年十月二十五日に急逝されました。
■昭和三六年から四七年三月退職まで、ご指導いただいた美術意匠学の島戸繁先生が平成十年三月一四日に急逝されました。先生は家政学部長にもなられ、退職後には、名誉教授にもなられました。
■昭和二七年から四十年まで、ご指導いただきました繊維工学の柳原文一先生は病氣御療養中でしたが平成十年三月二四日逝去されました。

訃報